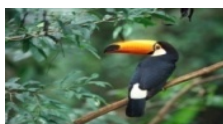


浦和高校 E C O 通信

22年度 第2号



環境委員会総務部発行 平成22年5月6日(木)
(この機関誌は、廃棄された紙の裏を使用しています。)

【各HR 電気使用量一覧(単位KW)】(4月28日現在。1日~8日は除いています。)

クラス	電気使用量	クラス	電気使用量	クラス	電気使用量
11R	115.9	21R	118.6	31R	173.4
12R	103.6	22R	151	32R	154.1
13R	97.7	23R	157.1	33R	176.5
14R	88.1	24R	140	34R	162.5
15R	104	25R	157.4	35R	175.6
16R	100	26R	142.1	36R	153.7
17R	136.8	27R	158.2	37R	217.5
18R	144.3	28R	172.9	38R	154.8
19R	144.7	29R	163	39R	154.6
10R	142.4				

上記の数字は、朝6:30ころから勉強のために点灯している3年生教室や、定時制で利用される17Rから10Rについて、**係数を掛けて適正值にするという操作をしていません**。したがって順位はまだつけていません。今年の係数については、今後検討いたします。単純に数字を比較できるものではないことをお断りしておきます。

現実にはこのような実数値になっていることを知っていただき、今後利用される比較値についてみなさんに納得してもらって参考になりたいと思いました。これから発行されるエコ通信では、定時制教室、3年生教室の係数は設けていません。エコ通信は月に1回を目安に発行いたします。お楽しみに。

暑い、寒いという前に

気温が25度を超えてくると、教室で「あつい、あつい！」という人が増えてきます。でも、そう言っている人の周りを見渡すと、窓を開けていないことがあります。締め切った教室で扇風機を回している、などという光景もしばしば見られます。

人は暑さを寒暖計の数字だけで判断しがちですが、**実は体感温度は気温とは比例しません**。同じ30℃でも、周囲に（扇風機などではできない）大きな気流があるかないか、湿気があるかないかで**体表面温度は劇的に変わります**。

暑いなら、まず窓をあけましょう

窓は、気流の動きを計算に入れると効率的に**気流発生装置**として機能します。それで相当涼しく感じます。原則は、次の3つです。

- ① 日が当たらない側の一番低いところと日が当たる側の一番高いところを開ける（最低限開けるべき場所を確認してくださいということです。）
- ② できるだけ開口部の面積を広げる（もちろん①以外の部分も開いていたほうがいいのです）。
- ③ 必ず外気が入って外へと出て行くまでの空気の通り道を確保する（片方だけの窓を開けて反対側の空気の逃げ口になる窓を開けないと気流は生じません。教室と廊下の中の窓は天窗まで開けてください。天井にたまる熱気を逃がします）。

この原則で、たぶん体感気温は3℃～5℃くらいは変わるはずですよ。暑いからすぐにエアコン…。その発想を少しでも変えられたらと思います。また、窓際に私物を置いて窓が開けられなくなっている教室もあります。窓際に私物を置くのは教室を暑苦しくするものですので、撤去してください。

梅雨明けに発行する号で別に案内する**ナイトページ**も（特集号でお知らせします）実践してください。

資源回収パートより

教室の後ろにあるペットボトルキャップの回収にご協力ありがとうございます。月に一回程度の割合で教室を回らせていただきますのでよろしく願いいたします。

植栽パートより

5月10日（月）放課後にグリーンカーテンの植え付けを行います。今年もキュウリとゴーヤを植えます。